



読売俳壇

高野ムツ才選

戦争を知らず語れず昭和の日

【評】「激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす」曰だが、戦後生まれは、その「激動」を知らず、語れないまま傘寿を迎えた。
葛城市 平林 政子

【評】やっと暖かさに恵まれた一日の靴洗い。二度繰り返された擬音が履く子どもだけでなく靴自体も喜んでるかのよつに伝える。
前橋市 西村 晃

【評】一日蓬摘みに精を出した。手を洗ってもまだ蓬だけではなく土の匂いも残っている。「指の谷」は指の付け根だろうが、着眼が良い。
東京都 吉田 徹夫

木の芽風十五年目の高台に
村上市 鈴木 正芳
青空に大きく弾むなりてまり花
神戸市 音羽 和俊
卒業や手を振る鳥が小さくなる
川崎市 西 順子
山登り言ひてどなりと藪かな
柏市 小畑 昌司
ペン先の影伸び文字となる春日
新潟市 大竹 健一
水脈を引く遊覧船や春隣
横浜市 福寿たか子

正木ゆう子選

白鳥の引く日見迷さじと通ふ

【評】ある朝いつせいに飛び立つ白鳥を見送るのが恒例なのだろう。今日か、明日か、と観察に通う。さぞかし素晴らしい景。見たいというより強く見逃したくないという気持。春分やリバーシブルのぬいぐるみ
高槻市 村松 譲

【評】春分とぬいぐるみの取合は意外だが、中七が蝶番の役目をして何となく響き合う。春分が寒冷と温暖を裏表に感じさせるせいだろうか。
横浜市 田中 清春

【評】AIの語りがやっぱりそれとわかるのは、呼吸をしていないからなるほど。人の言葉をどればど話しても、命は持たないAIなのだ。
松原市 古沢 昌代

父の絵の蒲公英今も同じ場所
高松市 入田 葉子
アーモンドの花咲き初むる休耕田
龍ヶ崎市 富山 俊幸
清張のカッパノベルス昭和の日
千葉市 石野 勤
水菜サラダしやくしやく電話には出ない
東京都 大岩 摩利
子等住める紀州も奥の山笑ふ
和泉市 山崎 文恵
ばあちゃんと摘んだ蓬は一斗笠
神栖市 山上ふみ子

小澤 實選

銭湯に新入社員誘ひ合ひ

【評】新入社員というと、固定的な発想になることが多いのだが、この句は新鮮。早くも仲良くなつて、銭湯に入り込んでいる。この後にまた職場に戻って、仕事をやるのかも。揚げたてのコロッケの下春キャベツ
土浦市 今泉 準一

【評】行きつけの食堂で揚げてもらったコロッケの下に敷いてあるキャベツが、やわらかな春のものに変わっていることに気づいた。
神戸市 西 和代

【評】明るい菜の花と映画の撮影待ちのエキストラのみなさんのざわめきを取り合わせた。菜の花咲く野辺だから時代劇かもしれない。
八王子市 徳永 松雄

足元に一升瓶や關鶏師
下妻市 神部 貢
尼寺の屋根の暗がり猫の恋
柏市 藤嶋 務
水切りの増えゆく水輪水温む
東大阪市 梶田 高清
柿若葉山文彦の空雲あらし
川崎市 沼田 広美
スキップの少女帰るぬ春の空
宮崎市 長友 聖次
陽さしだけ春新しい靴を履く
池田市 こただれいこ

津川絵理子選

あの人が来れば漫談春火鉢

【評】とりとめもない話というより、話芸という意味で使っているのと取った。話が上手で、いつも周囲を笑わせる人がいる。早く来ないかな、と春火鉢に当りながら待っている。
老人の唄ふイマジン鳥帰る
弘前市 長利 冬道

【評】イマジンを聴いていた世代も高齢に。しかし歌は古びず、今だからこそ切実に響く。物悲しさと、かすかな希望を感じさせる。
追い剣ぎのごとく土筆の袴取り
桜井市 東 利行

【評】たくさん採った土筆の袴を取る。数が多いから大変だ。袴を筆取り取る追い剣ぎにでもなったようだ、との把握が独特でユーモラス。
縞馬の縞かぞへたる日永かな
狭山市 長谷部寿子

たんぼぼや幼はぼぼと言葉増ゆ
相模原市 守本ありえ
椿さくらり廻つて土を向く
東京都 川瀬 佳穂
ジャンボ機の腰を見上げる遠足子
門真市 皆木多恵子
亀鳴くや鐘の失せたる貯金箱
姫路市 難波 佳代
今日もまた遠征な空さふし咲く
日立市 菊池 三天
来し方に少し悔いあり桜餅
つくば市 小林 浦波

枝しおり折

佐藤理江歌集『ドアノブだったら屈んで拾う』著者の第7歌集。何げない日常の光景に焦点を当て、不穩かつクリアな視点で切り取っていく。言葉によって現実の解像度を自在に上げる。その手際は鮮やか。へうしろうから嘲われながら折々は振り向きさまに微笑み返す
(書肆侃侃房、2310円)

◆第43回兜太現代俳句新人賞 内野義悠「雨滴の窓」(50句)、高田祥聖「あしころ」(同)
◆第25回俳句四季大賞 片山由美子「水柿」(ふらんす堂)
◆第14回俳句四季新人賞 加那屋こあ「ふれ合わず」(30句)

◆第13回俳句四季特別賞 内村恭子「多神」(東京四季出版)
◆第24回前川佐美雄賞 日高堯子歌集『日在浜』(KADOKAWA)
◆第34回ながらみ書房出版賞 屋良健一郎歌集『KON』(ながらみ書房)



題字デザイン・イラスト 福田美蘭